

2024（令和6）年度 横浜市
施設内高齢者の健康づくり事業

回想法等に基づいた 対話型美術鑑賞 報告書



本プロジェクトは横浜市民からの遺贈を原資とする社会福祉基金を活用する事業としてアーツアライブが受託しました。3か年計画で、横浜市内の高齢者施設に入所している認知症高齢者等のQOLの向上を目指して、対話型鑑賞プログラム《アートリップ》の手法を高齢者施設等の職員に身に付けてもらい、継続して施設内で実践できるようになることを目的としています。

2025年3月
横浜市・一般社団法人 Arts Alive

《アートリップ》とは

《アートリップ》とは、アーツアライブが美術館、介護施設等で認知症当事者と家族を対象に実施するグループ対話鑑賞プログラムです。現在は対象を一般の方、中高生、障害を持つ方にも広げ、オンラインでも開催しています。



今回のプロジェクト

高齢者施設等の職員が鑑賞の進行役（ファシリテーター）となり、アートリップに参加している高齢者に対し、作品の周辺情報などをまじえ、対話をしながら主体的な鑑賞をうながすことができる技術を身に付けてもらうことを目指します。

実施内容

高齢者施設の介護職員及びその周辺の専門職を対象にした講座であることから、通常法人が主催しているアートコンダクター（アートリップの企画・進行役）養成講座を凝縮した形で理論、基礎、実践を2日間半で学習しました。

養成講座日程

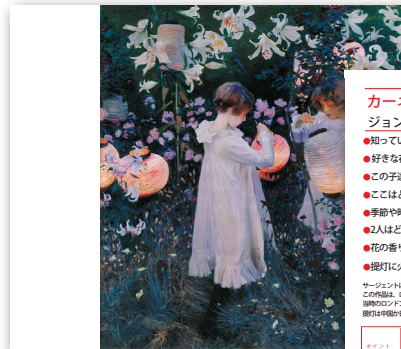
1日目	1月22日(水) 9:30 ~ 16:30
2日目	1月27日(月) 9:30 ~ 16:30
3日目(報告会)	2月12日(水) 9:30 ~ 12:00



参加者（施設・主なサービスごとの人数）

- ・介護老人保健施設、認知症カフェ（居宅療養管理指導実施薬局含む）—— 各3名
- ・特別養護老人ホーム、通所介護事業所（デイサービス）、ケアプラザ（地域包括支援センター含む）—— 各2名
- ・有料老人ホーム—— 1名

計13名



▲▶講座で使用した練習用画像パネル

カーネーション、リリー、リリー、ローズ 1885年(明治18年) arTrip

ジョン・シンガー・サージエント(アメリカ) 1856-1925年(明治13年) 大正13年

- 知っている花はありますか？それはどこにありますか？
- 好きな花はありますか？それはどこの花ですか？
- ここはどのような場所でしょうか？
- 季節や時間帯はいつ頃かと思いませんか？
- 2人はどのような関係でしょうか？何歳くらいでしょうか？
- 花の香りを感じますか？
- 提灯に火を灯したことはありますか？

サージエントはアメリカの印象派の画家、フランスで美術の教育を受け、ロンドンとパリで活躍。上流社会の豪華な舞会場で知られている。この作品は、ロンドンに移り住んだ姉妹の誕生日から11月まで毎夜描かれた。夕暮時の光と花の光を正確に捉えようとして内外で描写されている。提灯の光と花の光が交錯する様子は、見る者の心を魅了する。提灯の光と花の光が交錯する様子は、見る者の心を魅了する。提灯の光と花の光が交錯する様子は、見る者の心を魅了する。

○季節、時間帯、花の香り、2人の関係、2人の年齢、場所、○提灯や花の模様や色合い、○提灯の光、花の光、それらの重なりを味わう、○大きな作品なのでサイズをお伝えしてある●実際に目の前にあると想像して、提灯の中に入り込むようなイメージを持つかもしれない●この絵の中に入ったような気持ちになるだろう、○ファンタジー

arts alive a.d

1日目——理論・基礎

開港記念会館会議室にて、アートリップ体験、アートリップの概要、臨床効果、対話型鑑賞の基礎、アートコンダクターの役割、認知症の高齢者に対するコミュニケーションのコツ、アートリップにおける対話の構成を学びました。



2日目——実践

前日の学習を基に、練習用画像パネルを用いての実践練習を行いました。グループに分かれ、まず認定アートコンダクターによるアートリップ対話型鑑賞のデモンストレーションを参加者として体験。続いて受講生一人一人がそれに倣い、自らが選んだパネルを用いて、自己紹介、挨拶から始まり、最後のお礼までの一連の流れでのアートリップを実施して、それをコーチが各人に丁寧に講評しました。



参加者の感想より

報告会インタビュー抜粋

- ・実践して、新しい回想法のツールの一つとしてこれからの方たちにはとてもいいのではないかと感じました。これからのアクティビティの一つの良い考え方のきっかけになったと思います。
- ・非常に楽しいひと時を過ごすことができました。アートの魅力を参加者全員で共有することができるアートリップは、高齢者一人一人の人生を振り返り尊重するプログラムだと実感したので、認知症の方やそのご家族、介護者等、必要な方々に知ってもらいたいと思いました。これから、今回の講座で学んだことを繰り返し実践して、素敵なアートリップの時間を提供できるよう、スキルを磨いていきたいなと思いました。

事後アンケート抜粋

- ・絵はこう見なくてはいけない、という子供の時からの固定観念がありましたが、絵の見方が自由になり嬉しかったです。
- ・事前に練習パネルを頂けたので、実践前に練習することができて助かりました。入居者の方にパネルでアートリップを実践したところ、大変喜んでいただきました。普段あまりお話しされない方がご自分の思いを素直に声に出されていて、他の職員も驚いていました。
- ・まず、施設職員に対し実践練習を兼ねてアートリップを実施しました。介護職は様々な研修を受けますが、職員の心を豊かにするという研修はなかなかありません。介護士こそ心が豊かになる体験が必要です。介護士自身がアートリップを体験することで、自分自身でもやってみようと思う人がもっと増えると思います。



横浜市高齢施設課 施設内高齢者の健康づくり事業
(回想法等に基づいた対話型美術鑑賞) 委託事業

受託者 一般社団法人 Arts Alive www.artsalivejp.org
受託期間 令和6年4月1日から 令和7年3月31日まで

文責	林 容子 (一般社団法人 Arts Alive)
写真	一般社団法人 Arts Alive
報告書デザイン	近田火日輝 (fireworks.vc)